

世界ガールズ・レポート 2016

COUNTING THE INVISIBLE

USING DATA TO TRANSFORM THE LIVES OF GIRLS AND WOMEN BY 2030

見えない存在に光を当てる

データを活用して、2030年までに女の子と女性の人生に変革をもたらす

INTRODUCTION 概要

JOINING FORCES FOR AND WITH GIRLS AND WOMEN

女の子と女性のために、そして女の子と女性とともに生まれる結束の力

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (Transforming Our World: 2030 Agenda for Sustainable Development: 以下、「持続可能な開発目標」) は、2030年までにこの世界に変革をもたらすことを約束している。そこには、貧困や飢餓をなくし、不平等に立ち向かい、健康や教育の問題を改善し、気候変動と闘うことが明記されている。

これらの目標を実現させるために最初にしなければならないのは、ありのままの現実に向き合うことだ。なぜなら、それなくしては、ほとんどの目標とターゲットを完全に測定することができないからだ。目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」の成果を測定するために設定された、14の指標を例に挙げよう。14の指標のうち、多くの国でデータが定期的に、そして統計的方法論に基づいて収集されている指標は3つにすぎない。それ以外の指標については、さらなる努力やより広い地域でのデータ収集が必要である。

この問題は、「持続可能な開発目標」全体に及んでいる。掲げた目標に関する231の公式指標のうち、グローバルなレベルで通用し、統計のための基準や方法論に適ったデータが存在するのは半分以下にすぎない。この事実は、早急に議論されなければならない。なぜならば、女の子と女性のための進捗は、目標5というひとつの目標だけでなく、その他の目標にも影響するからだ。それぞれの目標は直接的も間接的も、すべての人々の生活に影響を及ぼすため、あらゆる目標の進捗を適切に測定する必要がある。

データが唯一の答えではない。しかし、データは変革を生み出していくためには欠かせない要素である。正確で信頼できるデータがあれば、不平等の根本原因を見つけ出し、何が効果をもたらす何がもたらさないかを測定でき、どんなプログラムや政策が影響力をもつのかを見極めることができる。

「持続可能な開発目標」の成功は、データの収集、分析、共有、そして活用の方法をいかに改善するかにかかっているが、簡単で即効性のある解決策などない。ジェンダーに関するデータ収集に革命を起こすには、忍耐力と粘り強さはもちろんのこと、投資の増額や人材、政治的意思、民間セクターからの要望、これらが欠かせない。政府、学界、市民社会、産業界は皆、進捗を追跡調査し、説明責任を果たし、ジェンダーに基づく偏見をなくしていく活動に積極的に関わる必要があるだろう。

『見えない存在に光を当てる (Counting the Invisible: Using data to transform the lives of girls and women by 2030)』は、ジェンダーに関するデータの昨今の状況を探った報告書である。この報告書では、2030年までの15年間に必要になるであろう取り組みのいくつかを特定している。そして、プラン・インターナショナルが陣頭指揮をとっている、新たな活気ある連合体についても紹介している。

第1章

プランが構築したパートナーたちとの連携について述べる。この連携は、女の子と女性のための「持続可能な開発目標」に関する進捗を測定するためにつくられた。その時のパートナー組織6つを紹介しているほか、各国政府やあらゆる関係者にジェンダー平等に向けた取り組みを実施し、説明責任を果たしてもらうための情報を率先して提供するという、この連携の理念と意図とを設定する。

第2章

ジェンダー・データとは何を意味するのか、なぜそれが重要なのかについて説明する。また、異なる集団間での、もしくはひとつの集団内での差異や不平等を明らかにするために、細かく分割された、より緻密なデータの必要性を探る。これから15年間にわたって女の子と女性のための進捗を追跡するために、強化されるべき指標をいくつか特定する。

第3章

データの収集と分析における限界と課題について述べる。データ収集の倫理、情報の保護、人権との兼ね合いなどに触れながら、データが変化をうながす役割を果たした事例を紹介する。

第 4 章

定性分析によって、定量データの構成要素について価値のある見解を得られることを提示する。ニカラグアとジンバブエの思春期の若者を対象として初期調査と聞き取りから、疎外感を感じていると答えた女の子たちが置かれている現実と体験を探り、明らかとなったポイントを紹介する。

第 5 章

本報告書の結論部分を記している。「**行動への呼びかけ**」とは、データを作成する人たちが分かりやすい形でデータを公表すること、データを所有する人たちが女の子や女性の立場に焦点をあてる形で使用すること、そしてデータをもたない人たちがデータを要求することである。具体的な推奨項目を以下のように列挙した。

・ジェンダーに関するデータ革命に火をつけるための取り組みの促進

2030 年までにグローバル・ゴールズを達成するには女の子や女性の生活、健康と福祉についての知識を進歩させることが不可欠である。

・国の統計力強化への投資

最も疎外されている人々に手を差し伸べ、誰も取り残されないようにするという希望の実現は、しっかりと信頼のできるデータがあって初めて可能となる。

・さまざまな種類、情報源のデータ収集と分析の取り入れ

今後 15 年間、女の子と女性の現実と体験を的確に把握し、対応するには幅広い情報が必要となる。

・アクションを促し、ムーブメントを形成するうえでの実証データの使用

単なる数字の羅列ではなく、背景の状況を把握できるデータは、女の子と女性の権利を唱道する人々にとって強力なツールとなる。

・安全で倫理的なデータ収集と分析の確立

データの共有にとどまらず、データの濫用がもたらしうる損害から人々を守ることも、関係する全ての人の責任である。

本白書、「*見えない存在に光を当てる*」では、有識者、データの専門家、研究者による、今後求められる方策と活動の実例に関するコメントを取り上げている。

Women Deliver のカチャ・アイバーセンは、データについての投資を含めた、女の子と女性への投資こそがすべての人々にとっての進歩をもたらす最善の方法であると論じている。

Data2X のマイラ・ブビニクとルース・レ빈は、「質の悪いデータ」や「データの欠如」にまつわる問題を述べており、女の子と女性については、標準以下の質のデータは、データが存在しない場合よりも結果的に悪影響をもたらすことを紹介している。

ONE キャンペーンのエロイズ・トッドは、「貧困は性差別」キャンペーンの事例を通して、効果的なアドボカシーにおけるデータの役割と、データが希薄な場合の問題について考察している。

最後に、経済協力開発機構(OECD)から、ガエイル・フェラント、ケイコ・ノワッカ、アンネリーゼ・ティムの3名が、ウガンダの社会規範と慣習が女の子の早すぎる結婚にもたらす影響を明らかにした研究を事例として、社会的機構やジェンダー指数が人々の態度、考え方、規範の変容に果たす役割について述べている。